

港区立港南中学校
令和6年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す 資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の 工夫
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉に関する基礎的な知識や技能を身に付けるとともに、言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを伝え合ったりする力を養う。 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、学んだことをもとに生活の中で生かしたり親しんだりする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、定期考査や日々の授業の様子から「漢字の読み書き能力」に特に課題が見られる。授業内の取り組みだけでなく、港南ノートを活用した漢字の読み書きの予習復習などを通して、漢字の苦手意識をなくし、漢字の学習に積極的に取り組むことが必要である。 2年生は小テスト、定期考査の結果から言語事項の習得に課題が見られる。自主的、継続的な学習態度を育てる必要がある。 3年生は、全国学力・学習状況調査の結果から「書くこと」に課題が見られた。自分の考えを順序立てて分かりやすく簡潔にまとめる力を付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教師からの説明」「理解確認」「理解深化」「自己評価」の4つの段階からなる「教えて考えさせる授業」を実践し、ペア活動やグループ活動等を取り入れながら、授業を進める。 学習内容の定着を図るため、漢字や文法などの小テストを実施する。 生徒同士で話し合いや練習を積み重ねることで、課題を解決するための筋道を考えたり、他の人の意見を参考に自分の意見をまとめたりする活動を多く取り入れる。 振り返りシートを用いて振り返りを行際、既習事項との関連や学んだことをどのように自分の活動に結び付けるかなどを適切な表現を使ってまとめさせる。 文章の構成を意識させて「書くこと」を授業の中で多く取り入れる。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の 工夫
社会	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な知識・技能の定着を目指す。 グラフや図などの資料を適切に読み取り、読み取った情報をもとに考える資質・能力の育成を目指す。 学習課題を把握し、その解決に向けて自ら粘り強く取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、小学校の学習内容を生かしながら、中学校での学習内容に関する基礎的な知識・技能が定着できている生徒が多い。一方で、既習事項を活用して資料を読み取り、適切にまとめることが課題である。 2年生は、前年度の基礎・基本の反復学習や協働学習などの成果で、一問一答形式の問いに対する正答率が高い生徒が多い。また、ワークシートなど授業中の取り組みも概ね良好である。一方で、日常的なポートフォリオの振り返りから、知識を活用して表現する力に課題がある生徒が多い。 3年生は、前年度からの読み取りまとめる学習の習慣化により、1つの資料をもとに文章に書きだしたり、自分の考えをまとめたりすることのできる生徒が前年度より増加している。このため、記述式の問題にも意欲的に取り組み、無回答のままにする生徒は少ない。一方で、複数の資料から情報を適切に読み取ることや社会的事象を多面的・多角的に捉え考えることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートや小テストを実施し、基礎的な知識・技能の定着を図る。また、ループブックなどを活用し、社会科の見方・考え方を働かせる課題に対する表現力を磨いていく。 写真や地図、グラフなどの資料を多く提示し、資料から何が読み取れるのかを考えさせる活動を取り入れる。また、ペアワークやグループワークを通して、読み取った情報を他者に説明するなどの対話的な活動を多く取り入れる。 ICTの活用やワークシート等の教材の工夫によって、分かる授業を実践していく。また、色チョークで重要度を可視化するなどユニバーサルデザインの視点を取り入れる。 「教えて考えさせる授業」のなかの「理解深化」において、生徒が社会科の見方・考え方を広げたり深めたりできるよう、自分の住んでいる芝浦・港南地域や理想とする未来像と比較したりしながら、主体的かつ深い学びに繋がる課題設定を行う。

	育成を目指す 資質・能力	全国学力・学力状況調査、学習評価及び定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の 工夫
数学	<ul style="list-style-type: none"> 単元の基礎・基本となる事項を理解し、知識として確実な定着を図る態度を育成する。 事象の変化や対応の特徴を見だし、図や表、式、グラフを相互に関連付けて表現できる力を育成する。 論理的に考え、手順をしっかりとて相手に説明できる力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は基本的な計算方法は授業内で理解できている。複雑な計算になると、正答できない生徒が増えることに課題がある。 2年生は基礎的な知識・理解や技能は、概ね定着しつつあるが、数学的な思考力・判断力・表現力の習熟に課題がある。 3年生は全国学力・学習状況調査の結果において、全国平均より「数と式」は2.0ポイント、「図形」は5.0ポイント上回り、「データの活用」は3.7ポイント下回った。1・2年次に学習した基礎的な計算や図形の知識・技能は身につけているが、2年次に学習する「箱ひげ図」に関する知識の定着に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教えて考えさせる授業」を実践し、「教師からの説明」と「理解確認」の場面で基礎的な知識・技能を身に付け、「理解深化」の場面では、課題に対して問題解決の過程を重視し、複数の解法を考えさせたり、自分の考えを相手に伝え、解決に向かう学び合いの活動を取り入れたりすることで思考力・判断力・表現力の向上を図る。 毎時間授業の始めに、計算ドリル演習を行い、基礎学力の定着を図る。 習熟度別少人数授業を展開し、与えられた課題を、図や表、式、グラフを活用し、筋道を立てて考えたり、演繹的に説明したりする活動を充実する。 「データの活用」(1年…データの分析と活用、2年…確率、箱ひげ図)についてより定着を図るため、「データの活用」が実際にどのように役立つかを具体的にイメージできるように、生徒が日常生活で遭遇する事象についての問題を授業で扱うようにする。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> 課題の発見、探究、解決の過程を通して、粘り強く学習活動に取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。 得点力が低く、理科が得意ではないと考える生徒には、得点力の向上を目指し、知識・技能に関する資質・能力の育成を目指す。 意欲的な生徒には、少し高度な内容も授業中教えることで、さらなる資質・能力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は自然の事物現象について、原理や理由を口頭や記述で説明することが課題である。この課題を解決するため、グループワーク等を通して説明させる機会を増やす必要がある。 2年生は実験や観察の結果をまとめたり、考察したりすることに課題がある。また、振り返り等で生徒の理解度を確認し、復習を強化する必要がある。 3年生はデータを読み取り、それを活用する能力に課題がある。実験でデータを共有させ、そのデータから1つの法則を見つけるような探究させる授業を積極的に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的な深い学びの実現に向けて、「教師からの説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の4つ段階からなる「教えて考えさせる授業」を今年度も継続し、多くの生徒が理科の学習を通して達成感・充実感が味わえることを目指す。 学習内容の定着を図るため、単元終了後に小テストを行う。 データの読み取りや活用に関する内容はグループワークを充実させ、教え合い授業を重点的に取り入れ、理解している生徒を先生に抜擢し、理解不足の生徒に教えることで苦手意識の克服に重点を置いた指導の工夫を行っていく。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 自己の反省や振り返りを通して、基礎的な知識・技能の向上や創意工夫して表現する力、他者と協働しながら演奏表現を工夫する力を養う。 曲や演奏の楽しさを見出す力、作曲家や演奏家の思いや意図を感受しながら鑑賞する力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は定期考査の結果より、基礎的な知識が身につけていないことや、思いやりをもって他者と協働し創意工夫した表現をすることに課題がある。 2年生は授業を通して自分の思いや意図を他者に的確に伝えることや音や音楽に触れ自己表現することに抵抗がある生徒が多い。 3年生は昨年度の授業評価の結果より、実技試験や演奏において創意工夫した表現が満足に達成することができないと悩む生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの工夫や資料等、ポイントを絞って提示することで分かりやすい授業の実践を行う。 授業開始の導入で発声練習や復習の時間を毎時間取り入れ、何度も繰り返しながら基礎的な知識・技能の定着を図る。 デジタル教材や動画等の資料、先生の説明等でメモを取りながら活動させる。 他者と協働しながらペア・グループでの表現活動・話し合い・教え合いの活動を充実させる。 演奏発表や互いの表現を評価しあう活動を積極的に取り入れる。その際、個人の振り返りを重視させながら活動に取り組む。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
美術	<ul style="list-style-type: none"> 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、多様な価値観を形成し、表現方法を忍耐強く自己努力し、創意工夫することができる能力を養う。 美術文化と豊かに関わる資質・能力を養い、造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて豊かに発想や構想ができる能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、対象や事象を造形的な視点で捉え、生徒の主体的・自律的な学習態度を育み、コミュニケーションを通して造形活動を幅広く積んでいく必要がある。 2年生は、美術や美術文化を理解し集中して表現活動に取り組む姿勢はできているが、表現の意図と工夫、美術の働きについて考え、見方や感じ方を深めていく経験が必要である。 3年生は、美術や美術文化に対する知識や理解力を発揮し表現活動に取り組むことはできているが、生み出した主題を追究し、さらに社会的広い視点で表現を発展させて社会生活に生かせる創造性を培う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「教師からの説明」、「理解確認」、「理解深化」、「自己評価」の4つ段階からなる「教えて考えさせる授業」を実践し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けて表現活動に取り組み、多角的多面的な視点で創造性を発揮し表現することにより、自己の達成感・充実感が味わえるような授業を目指す。 他者と協働しながら活動をする際には、自分の考えを他者に的確に伝え、クラス全体の表現活動がより充実するような話し合い活動を行う。 自然や身の回りの事物や環境から社会的にも幅広く表現の対象を捉え、美術が生活や社会において重要な役割を果たしていることを実感できるようにする。

	育成を目指す 資質・能力	新体力テスト、学習評価及び 定期考査等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習の視点に立ち、運動への親和的態度を養う。 運動技能の向上だけでなく、「する」・「みる」・「支える」の観点から運動を実施する能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 新体力テストの結果から本校の課題は全身持久力(20m シャトルラン、長距離走)、スピード(50m 走)の二つの項目にあり、走ることが苦手な生徒が多い。 1年生は運動に対して消極的な一面があり、積極的に取り組むために運動に対して親和的な態度、また他者と協働的に学習を行うために周囲への配慮や安全に関して知識を身に付ける必要がある。 2年生は積極的に活動に取り組む。課題として、自分の考えを他者に伝えたり、協働的な学習の中で、課題解決方法を思考したり、発言したりすることが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> 「走る」ことを苦手とする生徒が多い。その根本には「運動嫌い」、「体を動かすことが嫌」という理由が挙げられる。その理由を取り除くために、授業のはじめに「走る」活動を多く取り組み、苦手意識の払拭に努める。 課題解決能力を身に付けさせるために、生徒同士で話し合い活動の時間を設けて、協働的な学習を行う。課題を解決するためには自分自身の理解を高めることも必要だが、教え合い活動も有効である。授業の中で生徒同士の教えあい活動の充実を図る。

		<p>な生徒が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生は積極的に運動に取り組む。考えを他者に伝えたり、話し合い活動を積極的に行う一方で、他者と協力したり、フェアにスポーツに取り組む姿勢を身に付ける必要がある。 	
--	--	--	--

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の 工夫
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見交換を大切にし、情報共有する中で、創意・工夫ある作品作りをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、創意工夫する能力を生かし、お互いに情報共有する中で技能を磨き知識を高める。 ・2年生は、柔軟に考えを深められるよう主体的に学ぶ姿勢を養う。 ・3年生は、主体的に学習する中で、生活に役立つ技能を身に付け、知識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりを通して、創造力を高めさせ、意欲的に取り組めるよう個別に対応していきたい。 ・多種多様な情報収集する中で、正しい判断・処理を積み重ね、分かりやすく発信ができるように声掛けをする。 ・iPad・PC を活用できるよう声掛けをする。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価及び定期考査等の 結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の 工夫
外国語(英語・国際)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識・技能の定着をめざす。 ・読解力の向上と読み取った情報をもとに考える資質能力の育成を目指す。 ・主体的・対話的に学習に取り組む、自らの学習の課題を把握し、その解決に向けて粘り強く取り組むことのできる資質・能力の育成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生は、定期考査の結果からリスニングとライティングの正答率が悪いことが分かった。一方、単語や連語の知識は増えており、長文問題などに関しては意欲的に取り組んでおり、日々の学習の成果を見ることができた。 ・2年生は、昨年度の学習評価の結果から「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と84.2%の生徒が回答している。自分の考えを文章に書いたりすることに優れている生徒が多いのと積極的にコミュニケーションを図る姿が授業中に見ることができた。今後の課題としては、長文等の読解スピードをさらに身に付ける必要がある。 ・3年生は、昨年度の学習評価の結果から「よくわかる」「どちらかといえばわかる」と75.9%の生徒が回答している。読み取った情報を他者に伝えることについては得意である。一方で、基礎的な知識・技能の定着が不十分な生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「教えて考えさせる授業」を実践し、学力の低い生徒でも基礎的な知識・技能を習得し、自らの学習課題を把握し、高度な課題に取り組むことができるようにする。また、学力が高い生徒は、基礎的な知識・技能を習得し、それらを活用する課題に取り組み、主体的かつ深い学びにつながるようにする。 ・学習内容の定着をより深く図るために、引き続き小テストを実施する。定期考査では、基本文や重要表現を理解しているかを確認し、定着を図る。 ・読み取った情報や内容を他の生徒に説明をする等の活動及び自分の意見や考えを伝える活動をさらに充実させる。 ・長文等の読解スピードをさらに身に付けるために、多読の授業を実施する。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・かけがえのない命の尊さに目覚め、自他を敬愛する態度を育成し、友達のよさを認める心、他の人々に対する感謝の心、人の痛みのわかる思いやりの心を育てる ・情報リテラシー及び情報モラルや国際感覚を身に付け、多様性を受け入れる心を育み、グローバル社会を生き抜くことのできる資質を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験を振り返り、道徳的価値について考えたことを適切に表現できる生徒と、そうでない生徒の差がある。 ・ねらいとした価値について自分たちの生活に照らし合わせて考えられる生徒もいるが、実生活の行動に生かせていない場面が見られるため、実践力を育てていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論する活動をさらに取り入れ、互いの価値観や考え方を尊重し合えるよう雰囲気の醸成を図る。 ・人間としての生き方について自覚を深め、ともによりよく生きようとする意欲や態度を育てるために、題材の内容について話し合う活動を設定し、自分のこととして振り返る時間を確保する。また、題材の内容だけでなくそこからさらに様々な価値や考え方を教師から提供し、多様な考え方を知り得る機会を増やす。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・集団や社会の一員として、自ら進んで責任を果たす態度を養う。 ・互いの人格を尊重し、協力する態度を養う。 ・家庭や社会の中で、望ましい人間関係を築く力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験の不足や人間関係の希薄化、集団のために働く意欲や生活上の諸問題を話し合っ解決する力の不足、規範意識の低下などが表面化している。 ・好ましい人間関係を築けないことや、望ましい集団活動を通した社会性の育成が不十分な状況が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級活動や学校行事などにおいては、係生徒を中心とした生徒同士の活動の活発化を図り、生徒同士の好ましい人間関係の構築を図る。その際、教師はアンテナを高くした見守りを不断に行い、併せていじめ等の未然防止を図る。 ・褒める場面を作り、生徒の自己肯定感及び自主的・実践的な態度を育成する指導を積み重ねる。

	育成を目指す 資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・「人権」「環境」「防災」「勤労」等をテーマに、発達の段階に応じた系統性のある活動を通して、自ら課題を設定し、学び、解決する力を育成する。 ・キャリア教育を充実させ、主体的に進路を選択し、実現に向けて努力する生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のよさや課題について知ってはいないものの、その知識を自己の行動につなげて考える生徒は多くない。自らの行動が社会貢献につながる意識がもてるようにしたい。 ・キャリア教育の一貫として行われている様々な体験活動が、体験のみに終始してしまい、自分の生き方を考える機会となっていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材や機関等を有効に活用し、講演会や訪問学習、体験学習等を実施し、協働することを通して自らの課題を実感し、どのように解決していくかを考え、話し合う活動を多く設定する。また、地域の問題に関心をもち、地域に住む人間の責任と役割を理解し、ものを大切にする心を養い、地域貢献のための実践的な態度を身に付けられるように、防災学習やSDGsに関する探究学習に取り組む。 ・マナー講座、職業講話、職場体験等の進路学習を通して、その都度自分の進路や生き方についてキャリアパスポートを活用して考えたり話し合ったりする機会を設ける。